

第1回検討委員会 委員からの質問、意見と回答

太字：検討委員の意見 細字：市の回答、コメント

1-1 土曜チャレンジの内容に地域差がありますが、予算などの配分など、どうなっているのか・・・と思います。

土曜チャレンジ学習事業は、希望する小学校や社会教育団体が、実施計画案および必要経費案を作成しています。実施内容は、スポーツ、文化・芸術、体験活動、郷土愛を育てる活動など様々で、実施団体が企画・運営・報告を行っています。

予算については、希望する各小学校区の実施団体に20万円の予算内で計画していただいています。内訳は大きく分けて謝金（講師や教育推進員）と旅費、消耗品費等です。

（総合教育センター）

1-2 親支援という面で、子供の教育を考える中で、親の教育（学びの場）、親子で学べる場づくりも作っていきべきだと思います。

親支援、親の教育としてはPTA講演会等があります。PTAと学校が保護者や子どもたちに学んでほしい内容を考え、授業参観やオープンスクールの機会に開催しています。

各学校においては、防災学習や、親子で人権について考える人権意見発表会、学年懇談、学級懇談、家庭訪問等、様々な機会を設けています。

総合教育センターにおきましても、様々な親支援の事業を展開しています。「子どもをネットトラブルから守る市民研修会」や全小中学生を対象にインターネット利用状況調査を行い、その結果をリーフレットとして全学校で配布しています。リーフレットでは家庭で考えてほしいことを掲載し、親子で話し合う機会をつくっています。

この他にも発達特性の正しい理解やトレーニングを行う保護者研修会、不登校生や学校へ行きづらい児童生徒の保護者を対象とした親の会等を実施し、臨床心理士に気軽に相談できる機会を設けています。また、「家庭学習ハンドブック」を全児童生徒家庭に配布し、発達段階による育ちや学びの特徴を挙げ、愛情ある関わり、やる気を引き出す言葉かけ、子どもの学びに向かう力や自ら学ぶ力を育む手立て等をわかりやすく伝えられるよう取り組んでいます。

これらの取組は、総合教育センターのほんの一例ですが、このように親の教育(学びの場)、親子で学べる機会は、学校や総合教育センター、市、各種団体、企業から多くの情報や機会を提供しています。家庭の事情や意識、考えは様々ですが、それぞれの保護者で情報を取得し、選択できる状況ですので、活用は各保護者に委ねられています。

（総合教育センター）

2 マスク着用の発言のため各委員の発言内容が聞きづらく、マイク調整も不十分ではなかったか。会場の音響設備も十分な時間を割いて準備されていたのではないと思うが、リモート会議にもその効果が見えなかった。工夫が必要と思う。今後の会議の進め方は、テーマを絞ってする方が分かり易いのではないか

マイクの音声等につきましてはご迷惑をおかけしました。次回に改善を図ります。

また、テーマを絞って議論ができるよう会議の進め方の工夫を図りたいと思います。

(教育総務課)

3-1 現状分析に多様な子どもの姿が見えなかったことが残念です。少子化人口減の社会を誰もが豊かに生きるキーワードは多様性だと考えています。全体をとらえた分析も必要ですが、多様な子ども、つまり今の学校システムではしんどい子とか（HSCの子が目まぐるしいですが）、貧困の問題とか、不登校等そういう子どもたちも議論に提供していただきたいと思いました。

加西市の未来の学校を構想するとき、学校教育で「個別最適な学び」を保障することが不可欠です。そういった意味からも、委員会の議論において、必要に応じて、集団の中での特徴的な子ども達の姿や個別な子どもの実態・学校の実践が見えるような情報提供を行えるようにしていきます。

(学校教育課)

3-2 「学びの転換」を具体的に示してください。今の何がだめなのか、それをどう変えるのか。なぜ変えなければならないのか。もう少し議論が必要ではないでしょうか。

加西市の未来の学校構想の中核を成しているのが、加西市の教育のありたい姿を描くことです。加西市の子ども達に、STEAM 教育を推進していこうとするねらいについても議論の一つとしていただき、20 年後のわたしたちの町・加西を一人一人の「あったらいいな」を実現する人材づくりのための学校のあり方を議論いただきたいと思います。

(学校教育課)

3-3 以上の子どもの姿が見えてきたら、誰のために何が必要なのか、どうあることが大事なのか、行政が何を大事にしようとするかが見えてきたら、学校再編の方向性も議論できると思います。

行政はもちろんのこと、子ども達の育ちや学びを形づくる責務のある我々すべての大人が当事者となって、学校の未来の姿を構想していくための議論が深まることを望んでいます。

(学校教育課)

3-4 今回は第 1 回ということもあったので仕方なかったですが、「質問を意見を」というのは、多くの委員には難しいと思いました。次回からは、意見を求めることを具体的に明らかにしてください。

ご意見が出やすいよう具体的な問いかけを心掛けます。

(教育総務課)

3-5 大きな課題を市民の意見を聞いてやろうとしてられることは、広聴を大事にする行政の姿勢が見られていいなあと思います。そういう意味でも、保護者、子どもの意見（アンケート調査）もしていただきたいなと思います。とくに子どもの意見を大事にできないのですか。高校生や大学生など若い層の意見も聞いてみたいです。彼らの未来を語っているのですから。アンケート結果で変えられることと変えられないことはあるのはよくわかりますが。

アンケートの実施を予定しております。対象者についてもご検討いただく予定です。

(教育総務課)

4 次回の検討委員会では、小中学校の再編について教育委員会の素案が提示されると聞いています。統廃合により新たな場所で学校施設を整備する場合や、既存の学校施設を活用することも考えられます。既存の学校は、新耐震の校舎や耐震補強工事を実施した校舎がありますが、耐震工事や大規模改修により、建物の耐用年数が延びるものではないと聞いています。今後、既存の学校建物の活用計画を考えるために学校建物の建設年度や、これまでの改修履歴等について情報提供をされてはどうでしょうか。

次回に資料をご用意いたします。

(教育総務課)

5 「人生百年時代」の新しい学びとして、加西 STEAM の推進に期待します。5 歳から 22 歳までの学校教育は人生の四分の一です。新・新人類の親が高校生の大学選択と同じ様に学校を選択、学区の自由化が始まるかも？異文化を受け入れる度量が求められる。多様性が問われる。加西市独特の「みんな一緒に仲よくの文化」が問われる。

加西 STEAM への期待ありがとうございます。今後ますます広がっていく多様性やグローバル化などを含めた現実の課題について、自ら「問い」を立て、「なぜ?」「知りたい」「創りたい」という思いをもって「探究」する子どもたちを育成したいと考えています。今こそ、加西の子ども達に必要な資質・能力を育むための学校のありたい姿を議論いただければと思います。

(学校教育課)

6-1 加西の教育のありたい姿

少人数学習による、きめ細やかな教育の充実が求められる反面、児童・生徒に多様な考え方を習得させることも重要であり、バランスのとれたものにする必要がある。

現在、小・中学校で行われている加西の教育の成果を踏まえつつ、例えば、ICT 機器を活用した合同授業など、新たな学習形態の導入を促進する等、教育委員会と学校・教職員とが連携しながら、加西の子ども達に必要な生きる力を育めるように進めてまいります。また、今後の委員会の議論を参考にしながら、教育活動の推進に活かしてまいりたいと考えています。

(学校教育課)

6-2 小中学校の再編についての基本的な考え方

予算…現存規模での校舎等施設の維持・管理に要する費用や統廃合した場合の通学方法等にかかる経費についての見込みは？

今後見込まれる費用については比較分析が行えるよう検討を進めます。

(教育総務課)

6-3 教育効果…1 クラス 10 名以下の学級で学びの質や人格形成の上で本当に教育効果が上がるのか？他校との交流等工夫はしても常にできるわけでもないし、直接毎日顔を合わせて活動できるものでもない。

少人数での教育の質が低いという報告はありません。人格形成でも歪になることはないと考えますが、例えば、こども園では集団の遊びを中心とした学び、小学校では小グループであっても地域や他校とのコミュニケーションを推進した学び、中学校では小学校で学んだ地域の特色や魅力を持ち寄った集団での学びをテーマとするなど、加西市としての学びのストーリーを確立し、共有していく必要があります。子どもたちの主体的な学びを引き出す手立てを共に考えていきたいと考えています。

(学校教育課)

6-4 公教育における教育の平等性

小規模校のメリット、デメリットの中に、大規模校との様々な差が生じている。互いの学校の良さの追求も必要であり、デメリットの改善も必要である。

小規模校のメリットと大規模校のメリットを最大限に生かす方法を考えるとともにデメリットをできる限り少なくする方法を考える必要があると考えます。他校とのリモート授業の共有や、学校という範囲だけではなく、目指す児童生徒像を保護者や地域と一体となつて、できる手立てをうつ必要があります。

(学校教育課)

6-5 教職員の負担と資質

児童生徒減に伴う教職員数減による教職員個々への分掌の負担増や研修の機会の減少、相談相手の減少等資質レベルの向上における課題もある。

小規模校のデメリットとして考えられておられると思いますが、6-4の回答と同様に、できる限りデメリットを少なくする手立ては必要です。

(学校教育課)

7 加西市の子どもの現状の中で、「周囲の評価を気にする」「たくましさに欠ける」「自発性に欠ける」という課題点については、その要因が気になりました。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総則には、「小学校教育が円滑に行われるよう、①小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、②『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。」と記されています。「周囲の評価を気にする」「たくましさに欠ける」「自発性に欠ける」という子どもの現状は、子ども主体の遊び学習

と1コマ45分の一斉型教科学習（すべての授業においてそうとは限りませんが）との段差から生じているのかもしれませんが。コロナの関係もありますが、上記①と②など十分に連携を図れているとは言い難い現状から、正直『小学校教育との円滑な接続』に課題があるのではないかと思います。

ご指摘のように、幼保連携型認定こども園教育と小学校教育との円滑な接続が、加西の子ども達の課題解決の一つの手がかりになると思われます。これは、小・中学校の連携教育についても言えることです。今後、これまでの一斉授業も大切にしつつも、「みんなで同じことを、同じペースで」進めていく授業から、子ども主体の「みんな違う」授業へとさらに転換していく必要性も考えられます。また一方で、こども園の統合により、小学校と距離が離れたこども園もあります。物理的な距離についての課題を克服し、子ども達にとっての効果的な教育のあり方について、校種間での教職員の対話や保護者・地域の皆様のご意見に耳を傾けることにより進めたいと思います。

(学校教育課)

8 5年後、10年後の加西市の状況

人口、社会、経済、教育、等々のあらゆる面からどのような未来になっているか？予想したことを教育の視点をどう対応していくか考える必要があると思う。未来の予想は難しいのであれば、加西市の教育のビジョンをつくらないと方向性が定まらない。それぞれの意見が飛びかうだけで終わると思います。でも、こんな大切な事を、会議として聞いて頂ける加西市はすばらしいと思います。ありがとうございます。

本会の名称を、「未来の学校構想」としたのは、単に、少子化に伴う小・中学校の再編を進めていくことが本会のねらいではないためです。加西の未来を担う子ども達にとって、新しい発想でどのような教育を行っていくか、つまりは、まちづくりの基盤となる人づくりを、加西市としてどのようなビジョンを持つかということを検討していただいた上で、その教育を推進していくためにどのような学校が必要かを検討していただけることをお願いします。

(学校教育課)

9 理想や理念の協議よりも現状とこれからの人口（子ども）推移を元に再編を建設的に協議するのがよい。事前情報のないまま第1回会議に参加したが、何だか回りくどい印象を受けた。

今回の素案の提示につきましては、皆さまからの率直なご意見をいただければ幸いです。

(教育総務課)